

スタディスキルセミナーにおける LMS を利用した 授業実践と展望

関西学院大学高等教育推進センター 准教授

内 田 啓太郎

要 旨

現在の高等教育において、少人数のクラス構成で学生同士や教員と双方向のコミュニケーションの機会を確保、充実させた授業が求められている。「アクティブ・ラーニング」とも呼ばれるこのような形態の授業では学生と教員を含めた学習共同体である「ラーニング・コミュニティ」が形成されることを最終的な目的としている。その目的を実現するために多くの教育方法が開発されており、LMS (Learning Management System) の利用も有効な方法のひとつとして注目されている。

本論文では、関西学院大学で筆者が担当したスタディスキルセミナーにおける LMS の利用を通じて、どのような授業実践を行ったのかを紹介し、さらにその実践に対する評価と展望を述べている。

結論として、(1) LMS の利用は教材管理や出席管理、教員から学生への一方向的なコミュニケーションを効率よく実施できたことがわかった。その反面、(2) 学生を主体としたグループワークの円滑な運営や授業全体を「ラーニング・コミュニティ」化するための利用には大きな課題があることもわかった。

つづいて結論としてえられた (1) (2) をふまえながら今後の展望として CMC (Computer-Mediated Communication) 研究のアプローチから「ラーニング・コミュニティ」形成に向けた具体的な LMS の利用方法を検討すべきであると指摘した。

はじめに

筆者は2011年度春学期より新設されたスタディスキルセミナーにおいて LMS を活用した授業を実施してきた。本論文ではまず授業を通じて LMS をどのように利用したのかを説明し、つぎに実践の評価を行う。最後に評価をふまえつつ今後の展望を述べる。

本論文の構成は 1. では関西学院大学におけるスタディスキルセミナーの概要について説明し、つづいて LMS の導入と現状についてもあわせて説明する。2. では筆者が担当した授業においてどのように LMS を利用したのかについて説明する。3. では 2. をふまえてその授業実践の評価を行い、4. で今後の展望を述べる。

1. 関西学院大学におけるスタディスキルセミナーと LMS

1.1 スタディスキルセミナーの概要について

筆者が担当した「スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう!）」および「スタディスキルセミナー（文章力を身につけよう!）」は2011年度春学期より新設された授業科目である。前者の科目では「明快で論理的かつ説得的な表現力」としてのプレゼンテーション能力の育成を、後者の科目では「学術的すなわち論理的に自分の考えを表現できる」論文作成能力の育成を目的としている。

この目的の背景には現在の高等教育における「少人数授業」の実施や「授業における双方向性」の確保を通じた「アクティブ・ラーニング」の実現が強く求められていることが挙げられる。さらに筆者は「アクティブ・ラーニング」の実現を学習共同体である「ラーニング・コミュニティ」の形成として求めている。

そこでスタディスキルセミナーでは双方の科目において1クラス30名を上限とした2クラス編成で開講した。受講者を絞った授業形態とすることで「少人数授業」を実現することができた。くわえて「授業における双方向性」を確保するために授業ではLMSの利用を計画した。筆者は授業において双方向のコミュニケーションを実現することで学習共同体の形成を目指したのであった。

なお本論文では「スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう!）」2クラスでの授業実践について議論をすすめてゆくことにするが、個別の科目名称ではなく「スタディスキルセミナー」の名称を用いることにする。

1.2 LMSの導入と現状

関西学院大学では2010年9月よりLMSを導入、運用を開始している¹。このLMSは学内ではLUNA（Learning Unlimited Network for Academia）という名称で利用されており、そのシステムは米国Blackboard社のBlackboard Learn R9.1である。LUNAの管理は2010年春に学内に設置された高等教育推進センターが行っている。

以下、簡単ではあるが2011年度春学期を終えた時点からみた現状について説明する。LUNAは全学で一斉に導入したため、基本的には全ての開講科目が登録されている。その中で何らかの形でLUNAを利用した科目は各学部、センターが開講しているものをあわせて全体の42%であり、この数値に大学院での開講科目を含めると全体の35%の科目でLUNAを利用している計算となる。また利用者の実態としては（ほとんどの月で）専任教員の3割強が、（最も利用実績のあった月では）学生および大学院生の約8割がLUNAを利用していたことがアクセス記録からわかっている。

2. LMSを利用した授業実践の内容

本章では筆者が担当したスタディスキルセミナーにおいてLUNAのどの機能を利用したのかについて紹介し説明する。まずは2.1では章全体を概観し、2.2以降で筆者が利用したLUNAの各機能を詳しく説明する。

2.1 LUNA のどの機能を利用したか

筆者がスタディスキルセミナーにて利用した LUNA の機能をまとめると以下の 4 種類になる²。

- (1) コミュニケーション的機能
- (2) 告知的機能
- (3) 教材管理的機能
- (4) 成績管理・評価的機能

本節ではこれらの機能について概要を説明する。(1) コミュニケーション的機能は 2 種類あり、教員対学生のコミュニケーションを目的とする「掲示板」機能の利用と学生同士のコミュニケーションを目的とする「グループ掲示板」および「ファイル交換」機能の利用がある。

(2) 告知的機能とは主に「お知らせ」機能の利用を指しているが必要に応じて「教材」機能も利用している。(3) 教材管理的機能は「教材」機能のみの利用を指している。(4) 成績管理・評価的機能は LUNA に実装されている成績関連の機能ではなく「お知らせ」、「教材」、「掲示板」機能の組合せにより筆者が独自に成績管理や評価を行っている。

2.2 コミュニケーション的機能の利用

本節ではスタディスキルセミナーにおいて LUNA の利用を通じてコミュニケーション的機能をどのように実現していったのかを説明する。スタディスキルセミナーは従来の講義型授業と異なり、グループワークが中心の授業となるため教員対学生だけでなく、学生同士のコミュニケーションも充実させることが必須である。これは 1. で述べたように双方向のコミュニケーションを通じた学習共同体の形成を目指すうえで必要不可欠なことである。

筆者は LUNA を授業でのコミュニケーションのプラットフォームとして利用することを目指した。このプラットフォームでは 2 種類のコミュニケーションが交わされることになるはずであった。ひとつは(a)教員対学生のコミュニケーションであり、もうひとつは(b)学生同士のコミュニケーションである。

具体的に(a)については LUNA の「掲示板」機能を、(b)については「グループ掲示板」と「ファイル交換」機能を利用した。まず(a)であるが筆者は学生とのコミュニケーションを充実させるため「掲示板」を以下のような内容で利用した(図 1)。

図 1 からわかるように「授業連絡用」という名称のフォーラムへの書き込み数が多い。これは授業への出席確認のために教室で記入させる「コメントペーパー」の代わりとして学生が書き込んだものである(図 2)。

筆者の意図としては出席確認に時間をなるべくかけたくないこと、それ以上に授業に対する感想や質問などのコメントを幅広く求めることを想定していた。このような意図のもとで実施してみた結果、学生は必ず書き込みをしなくてはならないというほぼ強制に近い状態でありながら、授業に対する質問や感想を多く書き込んでいた³。

つぎに(b)であるが本論文で取りあげているスタディスキルセミナーでは学生はグループワークによりプレゼン実施の準備を行う⁴。各授業時間にてグループワークのための時間を十分に取することは難しく、授業時間外での学習活動としてもグループワークを行うことになった。しかし

削除

	フォーラム	説明	総投稿数	未読の投稿	総参加者数
↑	<input type="checkbox"/> 3回目のプレゼンに向けて	3回目のプレゼン（6月27日、7月4日、7月11日）に向けてテーマを募集中です。	5	0	3
↑	<input type="checkbox"/> 授業連絡用（その2）	5月16日の授業からは、こちらのフォーラムにスレッドを作成しますので、こちらにコメントを書き込んでください。	180	0	29
↑	<input type="checkbox"/> 授業連絡用	授業に関しての連絡やコメントペーパーの代わりに利用します（現在は、読むことはできますが、書き込む／スレッドを作成することはできません）。	116	0	29
↑	<input type="checkbox"/> テスト用	テスト用です。 自由に書き込んでください。	16	0	7

削除

図1 「掲示板」に作成したフォーラムの例

5月9日 授業コメント

フラグの設定

作成者:

投稿日:

編集日:

読まれた回数の合計:

12 (自分が読んだ数: 6)

2011年5月11日 14時07分11秒 JST

2011年5月11日 14時07分11秒 JST

今回、プレゼンをして緊張はしませんでしたけどどのような反応が返ってくるのかなーと不安がありました。

比較的文字を少なくし、写真を多用してみても飽きないようなプレゼンを心がけたのですがどうだったでしょうか？

テーマを決める時にみんなが興味があるもの、また自分たちも調べて楽しめるというか、調べるうえでもっと知りたいと思えるものにしよう！と「阪急電車」に決めたのですがテーマ決めはうまくいったのではないかと思います。

ただ、時間があればもっと詳しく、実際に駅を降りて調べたのになーと残念に思います。

1回目のプレゼン無事に終えたということで、次回は今回の反省をいかし、また良かったところはそのまま残して取り組みたいです。

5月9日 授業コメント

フラグの設定

図2 学生による授業コメントの書き込み

学生は履修する他の授業や課外活動のため直接顔をあわせることが難しい。したがって筆者はLUNAの「グループ掲示板」機能と「ファイル交換」機能を利用して、オンライン上でのグループワークを行うよう推奨した。

学生たちはプレゼンのスライドを作成する際にグループのメンバーで作業を分担しており、作成中のスライドを「ファイル交換」機能を利用してやりとりしていた。図4からもわかるように

← 返信: 5月9日 授業コメント
フラグの設定

作成者: 内田 啓太郎 ウチダ ケイタロウ (KEITAROU UTIDA) **読まれた回数の合計:** 4 (自分が読んだ数: 4)

投稿日: 2011年5月16日 18時04分37秒 JST

編集日: 2011年5月16日 18時04分37秒 JST

▼ 親投稿

写真は文字よりも直感的に捉える傾向があるので、写真のセレクトがうまく行くと、効果的なプレゼンができると思います。

その意味では今回の発表は上手くいったのではと思います。

ただし、実際に各駅で降りてみて、自分たちで写真を撮るなどしてくれば、より説得力が増しただろうと思います。

← 返信: 5月9日 授業コメント
フラグの設定

図3 コメントに対する教員からの返信

LUNAで始まる私的一天

Learning Unlimited Network for Academia

内田 啓太郎 ウチダ ケイタロウ(KEITAROU)
My プレース
ヘルプ
ログアウト

トップページ

科目

コミュニティ

全学共通コンテンツ

LUNAサポート

ファイル交換

ファイルの追加

削除

ファイル名	投稿者	ファイルサイズ (バイト)	投稿日
<input type="checkbox"/> AKB48の個々の活動について		3451029	2011年5月25日 18時48分56秒 JST
<input type="checkbox"/> AKB48活動の広がり(あらすじ)		14786	2011年5月27日 0時12分22秒 JST
<input type="checkbox"/> 第三回プレゼン、担当		72264	2011年6月22日 11時58分52秒 JST
<input type="checkbox"/> プレゼン3回目 担当 アニメーション 無		70795	2011年6月24日 10時32分30秒 JST
<input type="checkbox"/> 立案者～		112789	2011年5月26日 9時25分28秒 JST
<input type="checkbox"/> 改 立案者～		2353447	2011年5月27日 11時52分58秒 JST
<input type="checkbox"/> 三回目 まとめ		122306	2011年6月24日 22時12分28秒 JST
<input type="checkbox"/> 三回目まとめ 改		122484	2011年6月26日 11時15分34秒 JST
<input type="checkbox"/> パワーポイント		486054	2011年5月8日 0時00分39秒 JST
<input type="checkbox"/> つかみ①		108376	2011年5月25日 23時56分50秒 JST
<input type="checkbox"/> つかみ②		112125	2011年5月25日 23時57分18秒 JST
<input type="checkbox"/> つかみ(原稿)		14301	2011年5月25日 23時59分29秒 JST
<input type="checkbox"/> サウンド設定変更版		31818462	2011年5月28日 18時45分09秒 JST
<input type="checkbox"/> 「音」サウンド		179963	2011年5月28日 21時27分01秒

図4 「ファイル交換」機能の利用の様子

グループによっては高い頻度でファイルを交換していたことがわかる。したがってこの機能を利用させたことは成功であったといえるだろう。

一方「グループ掲示板」の利用は低調であり、全く利用しないか、またはメンバーのひとりが書き込みをしても他のメンバーから返信がない状態であることが多かった。「グループ掲示板」の利用については失敗であったといえる⁵。

2.3 告知的機能の利用

スタディスキルセミナーに関連するさまざまな情報を円滑に告知するため、筆者はLUNAの「お知らせ」と「教材」機能を利用した。具体的には「お知らせ」機能を通じて各種教材の掲載および更新情報の伝達、実施されたプレゼンに対する評価の発表などを行った。また「教材」機能を利用しプレゼンの実施スケジュールを常時閲覧可能にした。

具体的に説明すると、授業において配布し利用した資料についてはPDF形式のファイルに変換したうえでLUNAから閲覧可能にしていたが、LUNAの仕様によりRSSが配信されないため学生はLUNAにアクセスしない限りどの情報が掲載・更新されたかわからない。そのため筆者は教材を掲載・更新したのちに「お知らせ」機能を通じて学生へ告知した。これは学生へ電子メールの送信という形をとっているが、LUNA上でも「お知らせ」を確認できるようになっていた⁶。

授業においてはプレゼンの評価を教員と学生で行い、その結果を「お知らせ」機能で告知した。ただし結果については教材としてLUNA上に掲載し常時閲覧可能にもしていた⁷。

さらに「教材」機能を利用してプレゼンの発表スケジュールを公開した。これは「お知らせ」機能を利用しても同様に可能であるが、筆者は授業に関する「お知らせ」は毎週複数回送信しており、そのためこの情報が他の「お知らせ」にまぎれてしまい閲覧しづらくなることが予想された。したがって教材として掲載することで閲覧しやすくすることを目指した。

授業期間中、筆者はかなりの回数の「お知らせ」を送信した。これは授業時間中に伝え忘れてしまった情報や授業と授業の合間に連絡する必要にせまられた情報があつたためであるが、それに加えて学生によるLUNAの利用頻度を上げるためでもあつた。なぜなら、次節で説明するように筆者が担当した授業ではほとんどの教材をLUNA上で管理しており、そのため学習活動の観点からみても常にLUNAへアクセスして欲しいと考えたからである。つまり「LUNAにアクセスすれば必要な情報（教材）は全てそこにある」という意識づけを学生に対して行おうと考えていたのである⁸。

2.4 教材管理的機能の利用

どのような形式の授業であれ教員が苦勞することのひとつが数多い教材をどのように管理するかであろう。スタディスキルセミナーにおいては授業時間中に配布するプリントに加え、プレゼンとして発表したスライドのファイル、プレゼン評価のために学生が記入した評価シートなど、デジタルおよびアナログ両面での管理が必要とされた。そこで筆者は全ての教材をデジタル化し、LUNA上で一元管理することを試みた（図5）。

授業時間中に配布した資料はPCで作成しておりデジタル化されているので、これをPDF形



図 5 教材全体の公開の様子

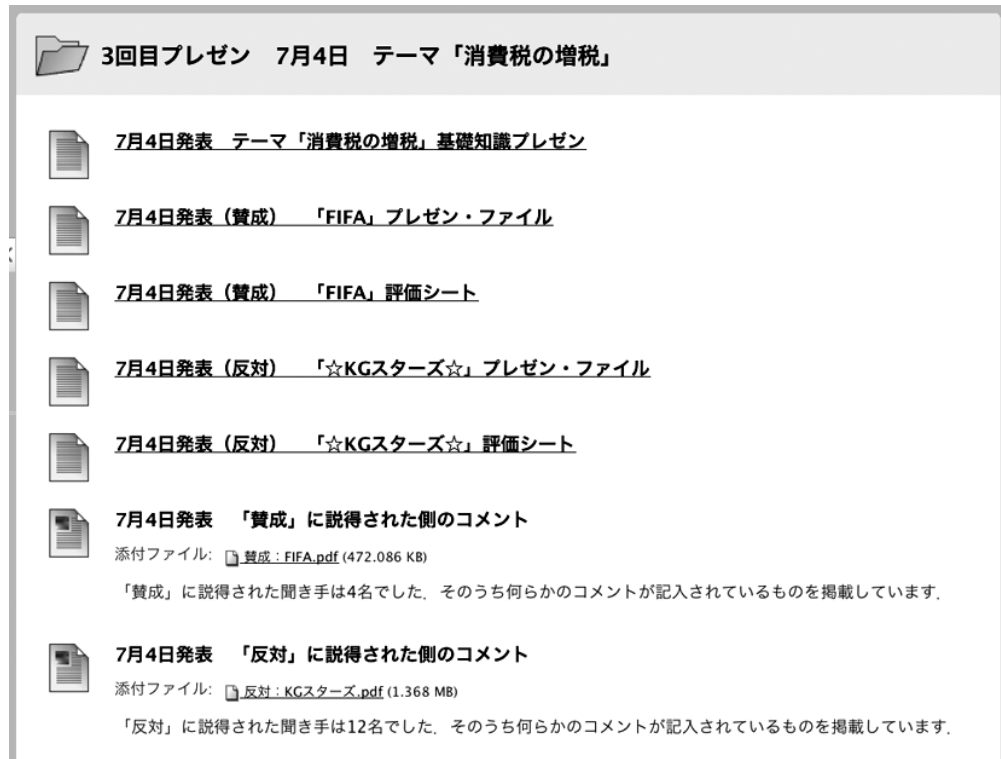


図 6 プレゼン関連教材の公開の様子

式のファイルに変換して LUNA に掲載し公開した。

学生たちがプレゼンとして発表したスライドは PowerPoint 形式のファイルであるため、これを発表終了後に各自 LUNA へアップロードさせ、筆者がまとめて他の教材と同様に公開、閲覧可能にした。学生は自分たちが聞き手にまわったプレゼンについては評価シートを用いた評価作業を実施した。これは手書きでの作業となるので授業終了時に筆者が回収し、スキャナを用いてデジタル化したうえで LUNA に掲載、公開した。

ここまで筆者が LUNA を用いてどのように各種教材を管理していたのかについて説明した。全ての教材をこのように公開・管理することで、教員、学生ともに授業で利用した教材をいつでも参照できるため、利便性は大きく高まったと考えている。

2.5 成績管理・評価的機能の利用

LUNA には成績管理のためにいくつかの機能が実装されているが、筆者は管理のしやすさを考慮して「お知らせ」、「教材」、「掲示板」機能を組み合わせて利用した。スタディスキルセミナーでは成績評価に出席点を組み込んでおり、学生の出席状況を把握する必要があった。さらに実施したプレゼンの評価も成績評価に組み込んでおり、その状況を随時学生に対して公開する必要があった。以上の理由から LUNA の単一の機能ではなく、複数の機能を組み合わせて利用することにした。

具体的には「掲示板」機能を利用して学生の出席状況を把握した。これは毎回の授業終了時に LUNA の掲示板へ授業の感想や質問事項を書き込ませることで出席の代わりとした。図7のように学生へ指示することで、学生の出席状況を把握しつつ同時に授業に対する感想や質問を収集することも可能となった。同じことは紙のコメントペーパーを配布し回収することでも可能であるが、回収後の閲覧や検索の容易さからいえば LUNA で実施する方が効率的だといえるだろう。

またプレゼン評価については手書きされた評価シートの回収後、すみやかに集計を行いその結果を告知する必要があった。そのため学生へ一斉に告知が可能な「お知らせ」機能を利用した(図8)。

さらにスキャンした評価シートとスライドのファイルを同じ場所から閲覧可能にしたことはすでに述べたが、そこでは数値化された評価と自由記述も閲覧可能であるため学生からみると自分たちのグループへの評価が数値としてだけでなく具体的な内容として把握できるようになっている。これは本来、教員自身が把握すべき情報であるが、情報の把握にいたる過程で同時に学生たち自身も自らの成績に関わる情報を把握可能だという意味で LUNA の機能を上手く生かしていると考えている。

ここまで筆者が担当した授業では LUNA をどのように利用したのかを説明してきた。次章では筆者が行った授業実践に対する自己評価を行う。

3. 実践への自己評価

本章では 2. で述べたスタディスキルセミナーにおける授業実践の実際をふまえ、教員である筆者の立場から自己評価してゆく。ここでは3つの観点から評価を行いたい。それは(1)教員と学生のコミュニケーション(2)グループワーク(3)教材管理、の3つである。

6月13日授業コメント

返信
引用符
編集
フラグの設定
削除

作成者:
内田 啓太郎 ウチダ ケイタ
読まれた回数の合 56 (自分が読んだ数: 7)
ロウ(KEITAROU UTIDA)
計:
投稿日:
2011年6月13日 14時50分34
秒 JST
編集日:
2011年6月13日 14時50分34
秒 JST

きょうの授業をもって2回目のプレゼン、全てのグループが実施したことになります。

授業時間中に、評価シートにいろいろ書き込んでいると思いますが、時間が足りなくて書き込めなかった、また授業終了後に気づいたことがあれば、それぞれのグループへのコメントとして書き込んでください。

とくにそれぞれのグループへのコメントが無い場合、自分の発表への豊富や、プレゼン実施にあたっての質問などなんでもOKですので書き込んでくださいね。

書き込みをもって出席確認とします。べ切は6月19日（日曜）いっぱいとします。

【注意】

きょう発表した2つのグループ（☆KGスターズ☆/FIFA）の方は自分たちの発表への自己評価を別のスレッドに書き込んでください。その書き込みが出席確認となります。

6月13日授業コメント

返信
引用符
編集
フラグの設定
削除

図7 「掲示板」へ出席確認がわりに書き込みを指示

3.1 教員と学生のコミュニケーション

教員と学生のコミュニケーションを円滑にさせ、またそれを促進するためのプラットフォームとして LUNA を利用したことは半分成功であり、半分失敗であったといえる。学生に対するコミュニケーションとしては「お知らせ」機能や「掲示板」機能を利用して必要最低限には行えたと考えている。その理由をひとことで表すならば「教員と学生の間で“一方向”のコミュニケーション」は行えたから、ということになる。

どのような形式の授業であれ教員と学生との間で双方向のコミュニケーションを実現することが求められる。LUNA は双方向のコミュニケーションを効率的に行えるプラットフォームになるはずであった。それが実現しなかった理由は教員と学生、双方の側に求められるだろう。教員側の理由としては「掲示板」機能を利用して集約した学生からの意見や質問の全てに答えられなかったことが挙げられる。また学生側の理由としては「掲示板」機能つまりオンライン上のコミュニケーションを利用して授業参加する、という意識が乏しかったことが挙げられる。

前者に関しては教員の努力次第で解消できるので比較的取り組みやすい問題であろう。一方で後者に関してはさらに2つの要因が考えられる。それは、ひとつには学生自身の経験としてオンライン上での双方向のコミュニケーションを利用した授業参加そのものが少ないであろうという



お知らせ

7月11日 プレゼン評価の結果発表

提出先: 2011年7月26日

7月11日の授業では、「日本でカジノを合法化するかどうか」というテーマでプレゼンを実施しました。

回収した評価シートをチェックした結果、

賛成（クリームパン） ---> 3票

反対（兵庫3大阪2） ---> 13票

となりました。

なお、当日のそれぞれのチームに対する評価シート、「賛成」「反対」どちらに説得されたかシート（長いですね）は「教材」ページに置きましたので、参考してください。

プレゼン・ファイルについても置きたいので、まだLUNAに置いていないチームは「グループ」の「クラス全体への連絡用（1組）」に置いてください。

科目リンク/教材/プレゼン・ファイルと評価済みシート/3回目プレゼン 7月11日 テーマ「日本でカジノを合法化するかどうか」

投稿者: ウチダ ケイタロウ
(KEITAROU UTIDA) 内田 啓太郎
投稿先: スタディスキルセミナー（プレゼン力を身につけよう！） 1 (月・4)

図8 「お知らせ」機能によるプレゼン評価の結果発表

こと、もうひとつは「掲示板」機能を利用させるとしても基本的に授業時間外の活動になるため教員が完全にコントロールすることは難しく、学生の自主性に期待するほかなかったということが考えられる。ただしこれらの要因は筆者の教員としての立場からの考察でしかなく、たとえば学生へのインタビューないし質問紙調査といった定性的・定量的調査を実施して正確な情報を得る必要があると思われる⁹。

本節のまとめをすると、2.で述べた「コミュニケーション的機能」と「告知的機能」をあわせて考えるならば本節の冒頭で述べたように授業における「対学生」のコミュニケーションはある程度成功したと考えてよい。とくに教員からみれば学生に対するさまざまな形での情報発信がLUNAというひとつのシステムから簡単に行えたということは授業運営のうえで大きなメリットであった。

3.2 グループワーク

スタディスキルセミナーでは授業時間内外におけるグループワークの実施を目的のひとつとしていた。これは授業時間内では教室における活動となるが、授業時間外ではどこにおいて行えば

よいのか。はじめ筆者はここが LUNA 活用の要となると考えていた。授業時間外に学生が直接顔をあわせてグループワークを行うことは難しいものと予測できていたので、その代替策として LUNA の利用を促進しようと考えていたのである。結論からいえば2.2で述べたように成功したとはいいがたい結果となった。

LUNA には「グループ」という機能があり、この機能に含まれるいくつかのサブ機能を利用すれば十分にグループワークが行える仕様となっている¹⁰。そこで筆者は「グループ掲示板」と「ファイル交換」の2つの機能を学生に利用させることでグループワークの活性化を図った。その結果は「ファイル交換」機能はよく利用されたが「グループ掲示板」は（筆者の期待どおりに）利用されなかった。その理由についても前節で指摘したように本格的な調査を行う必要があるので、ここでは筆者の（LUNA 上では授業担当者という立場からの）考察を述べるにとどめたい。

「ファイル交換」機能が活用された理由はわかりやすい。学生はグループワークとしてスライドを作成したが、基本的には作業を分担してすすめたので作成中のファイルをやりとりする必要があったからである。これは電子メールにファイルを添付しての送信や USB メモリでの手渡しといった方法も考えられるが、スライドのファイルは大きいサイズとなることから電子メールでの送信は現実的ではなく、直接会っての手渡しも（他の授業や課外活動で多忙な）学生からすれば面倒をとまなうものであったことは容易に想像できる。したがって LUNA 上でのファイルの交換というやり方が最も好まれたのである。

「ファイル交換」機能がよく利用された一方で「グループ掲示板」があまり利用されなかったのはなぜか。筆者はグループ内でプレゼンのテーマ案の選定やスライド作成の進捗状況の報告や情報共有に「グループ掲示板」を活用して欲しいと考え、そのような活動を推奨していた。利用されなかった理由は前節で述べたように、学生が抱くオンライン上での双方向のコミュニケーションに対する意識面での敷居の高さや、さらにそれらの活動を学生に対して授業時間外にまで強く求めることの難しさが挙げられるだろう。

最後にこれは仮定の話となるが、「グループ掲示板」にはファイルを添付することが可能であるため「ファイル交換」機能の利用をやめ、作成中のスライドのファイルを「グループ掲示板」を通じてやりとりさせたとすれば、結果はまた異なったものになったかもしれない。

3.3 教材管理

筆者にとって LUNA を利用した最も大きなメリットは教材の管理がやりやすくなったことではないかと考えている。これは2つの点で評価できるだろう。ひとつは印刷したプリントとして配布した教材の管理、もうひとつは教材の（コンテンツとしての）形態の柔軟性である。

スタディスキルセミナーは講義形式の授業科目ではなかったが、筆者が作成し配布したプリントは結構な枚数となった。プリントは授業開始時に必要十分な枚数を印刷、配布しているが授業を欠席した学生やプリントを破損、紛失した学生から再配布を求める声は少なからずあった。筆者としてはそのような要望を前もって把握することは難しく、また煩雑な作業でもある。そこで授業において配布済みのプリントは LUNA へ教材として掲載し、閲覧可能な状態にしておくことで、学生は自分が必要とするプリントを自由に閲覧ないし印刷することが可能となった。その

結果、筆者の負担は軽減されたのである。

さらに LUNA では PDF 形式や PowerPoint 形式などのファイルだけでなく、デジタル化された情報ならば、そこから多様な教材を作成して掲載し閲覧可能にすることができる。たとえばスタディスキルセミナーではプレゼンのスライド作成に有用と思われるウェブサイトへのハイパーリンクを埋め込んだページを作成して学生へ提供した (図9)¹¹。また筆者は利用しなかったが LUNA では音声や動画などのリッチコンテンツを教材として掲載し閲覧させることも可能な仕様となっている。したがって教材管理の面では LUNA が非常に役立ったと評価できる。仮に LUNA を利用せずにこのような教材管理を実現しようと考えたならば、そのためにウェブサーバ用の高機能なハードウェアやウェブ技術やデータベースに関連したソフトウェアの知識なども必要となり、筆者の手には負えず実現は不可能であったと思う。

3.4 自己評価のまとめ

本章の冒頭で挙げた3つの観点 (「教員と学生のコミュニケーション」「グループワーク」「教材管理」) からの自己評価をまとめたい。教員である筆者からみた場合、LUNA を利用したこと



役に立つ資料の紹介

このページでは、プレゼンの構成を考えたり、スライドを効果的に作成する上で大いに役立つと思われる資料を紹介します。

※資料といっても、書籍だけにこだわらずWebサイトや上手く作られているスライドやレジュメなども紹介するつもりです。

く

「伝わるデザイン 研究発表のユニバーサルデザイン」

<http://tsutawarudesign.web.fc2.com/index.html>

東北大学大学院の高橋佑磨さん、金沢大学の片山なつさんが制作・編集・デザインされているWebサイトです。

スライドを用いたプレゼンやポスター発表において、スライドやポスターのデザインのあり方を話し手 (発表者) と聞き手とのコミュニケーションという視点から細かく、かつ豊富な例示とともに解説されています。

このWebサイトの利用ですが、例えば、スライドに用いるのに適切なフォント (書体) は何か/スライドはどのような色使いが適切か/聞き手の視覚に訴えやすいグラフや表の作り方 etc. といったことに困っているならば、まずは関連するページを読むというリファレンス的 (マニュアル的) な使い方もできますし、プレゼンの構成案 (アウトライン) ができあがったら、まずこのサイトのはじめからおわりまで一通り読んでみるという使い方もありでしょう。

とにかく非常に役に立つWebサイトであることは間違いありません。

図9 ハイパーリンクを埋め込んだページの様子

の利便性や機能性は非常に高く、とくに学生に対するコミュニケーションと教材管理の面において上手く使いこなせたと考えている。また学生にとっても教材の閲覧やグループワークにおけるファイルのやりとりの効率化においては十分に役立ったと考えてよいだろう。

一方で学生からみた場合、果たして LUNA の利用がどれほど学習活動に対して効果があったのか、正確に測定していないとはいえ疑問を感じている。もちろんその理由のひとつは筆者による LUNA の利用に不備な面があったからであるが、LUNA 自体の可能性を否定するものではない。

結論からいえば筆者が行った（LUNA を利用した）授業実践は教員、学生の利便性を向上させることには成功し、学習活動を効果的に行うための空間である「ラーニング・コミュニティ」の形成には失敗したといえる。前者については今後も LUNA を利用しつづけることでより効率的なノウハウを身につけることが可能だと考えているが、後者に関しては試行錯誤をつづけてゆくほかはないと考えている。

次章では今後の展望として、授業における「ラーニング・コミュニティ」の形成をどのように実現してゆくかを考察したい。

4. 今後の展望 —「ラーニング・コミュニティ」の形成にむけて—

筆者はラーニング・コミュニティの形成にとって LUNA の利用は不可欠であると考えている。なぜなら LUNA が可能としているさまざまな機能は「オンライン・コミュニティ」のインフラとして十分に機能しうるものであり、LUNA を活用していったん（オンライン上に）コミュニティを形成できれば、それを現実の教室におけるグループワークと重ね合わせることでラーニング・コミュニティにまで拡張できるからである¹²。

ラーニング・コミュニティの形成については複数のアプローチから研究されている¹³。そこで筆者は自身の専門分野である CMC（Computer-Mediated Communication）研究からのアプローチを考えている。「ラーニング」と「CMC」、この2つは普通に考えると結びつかないような言葉である。しかし「ラーニング・コミュニティ」と「CMC」ならば十分に結びつくだろう。なぜなら CMC 研究とはオンライン上でのコミュニケーションを通じて、コミュニティがどのように形成されるのか（されてきたのか）を研究しつづけてきた研究分野だからである。そして LUNA を利用するということはオンライン上でのコミュニケーションを行うということにほかならないからである。

筆者が LUNA を利用した授業運営を始める際に目指したことは LUNA 上での活発なコミュニケーションやグループワークを通じたコミュニティの形成であった。くわえて LUNA 上に形成されるコミュニティをさらに「ラーニング・コミュニティ」へ拡張することでもあった。残念ながらこの試みは上手くいかなかったが、今回の実践で得られた知見とそれに対する自己評価をもとに CMC 研究のアプローチから（LUNA という）オンライン上にコミュニティをどのように形成し、さらにそれを活性化させ、ラーニング・コミュニティへと拡張させてゆくにはどのような手法が必要となるのか、引き続きスタディスキルセミナーでの実践を通じて考えてゆきたい。その実践の結果は別の機会に報告したいと考えている。

〔注〕

- 1 本節で説明した LMS の LUNA の導入と現状に関しては主に西谷 (2011) を参照している。
- 2 本節以降の見出しとしてたとえば「コミュニケーション的機能」としているが、これは LUNA に実装されている各機能を状況に応じ複数組み合わせる利用していたため、それらをまとめたうえ、筆者が改めて授業運営の観点から適切に名付けたものである。したがって LUNA に同じ名称の機能が実装されているわけではないことに留意して欲しい。
- 3 出席確認のための書き込みであるため期限を設けたが、書き込みを促す「お知らせ」を見逃した等の理由で期限までに書き込みをしなかった学生が散見された。また授業終了後に書き込みを行うため、不正が行われないような措置を講じる必要があると実感した。
- 4 授業では30名の学生を5名で1グループ、計6グループに編成し、プレゼンについてはグループの形式で学期中に各グループが3回実施した。
- 5 岩崎・中橋 (2010) では多人数授業ではあるが、LMS を利用したアクティブ・ラーニングの実践を報告している。そのなかで掲示板機能を上手く活用するため LA (Learning Assistant) を導入したことがわかっている。筆者の担当するスタディスキルセミナーにおいても2011年度秋学期より LA を導入しており、本論文の執筆時点では LUNA 上でのコミュニケーションを活性化させるための方法を LA とともに模索しているところである。なお LA を含めた授業内外での支援体制や活動については岩崎ら (2008) を参照のこと。
- 6 LUNA では科目のページにアクセスすればいつでも過去にさかのぼり「お知らせ」を閲覧することが可能である。また教員の操作により特定の「お知らせ」を期間限定で LUNA に表示させることも可能である。
- 7 図6で示すようにプレゼンごとに「教材」ページを作成し、そこにはスライドのファイル、手書きで記入された評価シートをスキャンしたもの、実際の評価結果など、必要な情報を全て掲載し閲覧できるようにしていた。
- 8 学生からすれば毎週相当数の「お知らせ」が自分のメールアドレスあてに届くため「面倒であった」という意見が、学期中に実施した授業調査の自由記述欄より見受けられた。しかし全く告知しないわけにもいかず、実際に筆者は「お知らせ」をバランスよく送ることに苦慮した。
- 9 参考文献で挙げている先行研究からは LA を効果的に導入することで LMS 上でのコミュニケーション活動を活性化できることがわかっている。そのため (教員でもなく学生でもない第三者としての) LA に対する調査も必要だと考えている。詳しくは岩崎ほか (2008) や岩崎・中橋 (2010) を参照のこと。
- 10 LUNA の「グループ」機能にはここで挙げたサブ機能以外にも、チャット、ブログ、Wiki といったサブ機能が実装されており、オンライン上でグループワークを行うには必要十分な機能が備わっている。
- 11 LUNA では各種ファイルをアップロードして単独で公開したり、コメントをつけて公開することが可能である。さらに簡易なエディタを利用するか直接 HTML を記述して図9で示したようなページを作成することも可能である。つまり LUNA の「教材」機能はかなり柔軟性をもつ機能であるといえる。
- 12 LUNA でのオンライン・コミュニケーションと教室でのグループワークという形態のコミュニケーションを機能的に組み合わせ、それをラーニング・コミュニティにまで拡張する方法論としては東京大学教養学部での取り組み (「質の高い大学教育推進プログラム」) が先行事例として参考になると思われる。詳しくは東京大学教養学部 (2011) を参照のこと。
- 13 筆者の理解では (高等教育にとどまらない) 幅広い意味での学習行動から研究した成果として中原 (2010) や吉田編 (2008) が挙げられるだろう。

参考文献

岩崎千晶・久保田賢一・冬木正彦、2008、「LMS の活用事例からみる授業改善の試みと組織的支援」『教育メディア研究』14(2)、pp.1-10、日本教育メディア学会

- 岩崎千晶・中橋雄、2010、「LMS を活用した多人数授業におけるアクティブ・ラーニングの実践」『論文誌 ICT 活用教育方法研究』13(1)、pp.11-15、私立大学情報教育協会
- 金明秀、2011、「エンrollmentマネジメントの観点から見たファカルティ・ディベロップメントの課題」『関西学院大学高等教育研究』創刊号、pp.81-91、関西学院大学高等教育推進センター
- 質の高い大学教育推進プログラム編、2011、『授業の中での討議力養成 HINTS 10』、東京大学教養学部
- 中原淳、2010、『職場学習論—仕事の学びを科学する』、東京大学出版会
- 西谷滋人、2011、「BbLearn R9.1 関西学院大学 Kwansei Gakuin Univ.」、BbDAY Tokyo 2011発表資料
- 吉田孟史編、2008、『コミュニティ・ラーニング—組織学習論の新展開』、ナカニシヤ出版